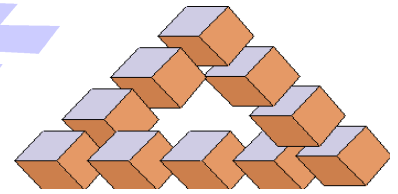


会長の独り言



No. 12 H31.2.13

横浜市小学校算数教育研究会長 小林 広昭

研究主題 「数学的に考える資質・能力を育成する算数科学習」
～数学的な見方・考え方が成長する学び～

考えることについて考える！

先週の水曜日に行われた「県小教研中央研究大会横浜大会」で慶応大学の鹿毛雅治先生が講演されました。その中で「そもそも思考（考える）とは」という問いがありました。思考力・判断力・表現力等の育成と叫ばれているけど、その思考とはどのようなもの、どのような活動をさせているのか、私たちは、意識してきたのでしょうか。算数・数学では、「論理的に考える（筋道立てて考える）」「統合的・発展的に」「簡潔・明瞭・的確」「目的に応じて」「よさ」「活用」「着目して思考する」・・・などの言葉が出てきますが、子どもの姿で描くことができるのでしょうか。

鹿毛先生の話の前から私自身も数学的な見方・考え方とは、どのようなことをさすのだろうか。学習指導要領に記述されていることだけでなく、一般的に数学的に考えるとは？数学的な思考とは？さらに、THE 21という雑誌に「思考術」レッソンの特集が組まれています。古い著書にも「考えることの教育」というものもあります。「考える」?????

考えることについて考えなければと考えています。（ほんまかいな？）

あるコンサルタントは、論理的であるとは、「誰が見ても話がつながっていること」と述べています。「誰が見ても」は、客観的であるということ。「話がつながっている」とは、問いと理由と結論がつながっていることと述べています。

さて、本日のワークショップの話し合いも、まずは、みなさんが「問い」をもち、共有化すること。その解決に向けて、協働して話し合いを進めること。その際、そこに集う方々のどなたにも理解できる、納得できる言葉で根拠を示しながら話し合うこと。でも、納得させるための話す時間に気をつけること、一人が長くならないように。そして、なんとなく意見を出し合って終わるのではなく、結論を導いてください。正しいかどうかではなく、そこに集った人たちの納得のいく結論、ゴールを見いだしてください。それが論理的に協働して思考することと考えます。

思考（考えること）を考える話をしてきましたが、私の関心は、対話についても考えたいと思っています。今年の研究の「問い」については、いくつかの具体を示してきましたが、それを子どもと生みだしていくためには、子どもとの対話が不可欠だと思います。子どもの考えを理解し、その考えを広げたり深めたりする返しを可能にするのは、対話力と考えています。

本日の研究会でもみなさんの対話について、考えてみたいと思っています。

みなさんは、本日の研究会から何を学ぶのでしょうか。

<この「会長の独り言」は、印刷して配付していただいてもかまいません。>